

Hip Joint news

(公財) 日本股関節研究振興財団会報

URL <http://www.kokansetu.or.jp>

E-mail info@kokansetu.or.jp

第2号 平成27年 1月

発行 公益財団法人
日本股関節研究振興財団
〒154-0011

東京都世田谷区上馬 1-13-11

電話 03-3421-6552

FAX 03-3421-6716

整形外科、股関節との出会い

公益財団法人日本股関節研究振興財団

名誉理事長

伊丹 康人



私が医学生だった頃は、整形外科という科は、内科、外科などと比べまだ年数の浅いマイナーな科でありました。私が、その整形外科にどうして興味を持ったかをお話ししましょう。

当時は、まだ理学療法士はいませんから、マッサージ師という職の人がマッサージを行いましたが、私も行っていました。そして、私は股関節疾患の治療にのめり込んでいきました。

それは、二十代初めの頃でした。私は現在、百歳でありますから、かれこれ八十年も昔のことです。医学部高学年になると、実際手術を見学する授業があります。私達は硝子越しに上からのぞくように手術を見ました。それは、慈恵医科大学整形外科一代目の主任教授片山国幸先生の股関節

の手術でした。鮮やかに展開される大手術に、びっくり仰天しつつも次第に引き込まれていきました。そして、自分もあんなダイナミックな手術を手際良く行ってみたい、患者さんを治したいと強烈に思いました。整形外科入局後、LCC（先天性股関節脱臼）で多くの患者さんとその家族が難儀をされているのを知りました。そこから、どうしてそのような疾患が生じるのか、その治療法を懸命に研究しました。

脱臼を整復し、股関節を正常な位置に維持させるために固定し、時期がくるとマッサージというような保存療法です。

勿論、頸痛・五十肩・腰痛・膝痛・様々な関節痛・脚の疾患・骨粗鬆症（当時はこの名前はなかった）といった整形外科疾患には、未知数の未解決の病気が沢山ありました。まるで未開拓の土地を切り開いていくようで、日々治療法の研究と臨床に没頭しました。

そして年と共に指導する立場になると、医学の進歩は医師の努力だけでは足りないことに気づきました。

医師達が思い切り研究するためには、多大な資金が必要でした。資金を確保するための受け皿を作る必要がありました。これが、私が財団を設立した意図です。私費を投じたといっても、それだけでは不足で多方面に出かけ寄付を仰ぎました。

財団設立以来二十七年間の股関節疾患に対する治療の進歩は目覚ましいものです。そして、今後その速度は緩めてはいけません。そのためには、継続的に股関節

の研究に携わる医師への潤沢な助成金が必要であります。つまりそれは、全ての国民の運動器の健康に戻ってくるからです。当財団は2011年に公益財団法人として認められました、日本人の股関節、そして運動器の健康が当財団に任されたといっても過言ではないでしょう。

私は百歳になって、さらに両脚で歩ける喜びを感じています。脚を動かす要の関節は股関節です。股関節は運動器の健康寿命延伸の鍵を握ります。そして、皆さんは股関節のことをどれくらい知っていますか。股関節は多軸荷重関節といって、身体を支えながら様々に動く関節です。その荷重は、片足起立の時は、体重の4分の3、つまり60kgの人は45kg。歩行時には加速度が加わるので、体重の約4〜5倍。階段昇降時には約6〜7倍、跳躍すると12倍にもなります。

この股関節をいかに健康に維持しケアしていくかが、これからの私達の健康寿命延伸の課題です。当財団では、まだどこも本格的に力をいれていない股関節の健康、ロコモティブシンドローム対応の健康づくりも長年の活動を生かして進めています。ピンピンコロリを目指すならば、股関節を中心とした運動器の健康づくりをいたしましょう。

最後になりましたが、新年がお健やかな日々でありますように心からお祈りしています。

平成26年度 股関節助成金 交付者決定

企業様からのご寄附と皆様からの「股関節らくらく募金」は、
下記の助成金に使用されました。
温かいご支援に、感謝いたします。



平成26年度股関節助成金交付者は、応募者15名に対し厳正な審査の結果、下記の4名に決定され、平成26年11月1日(土)、京王プラザホテル新宿南館4階「かつら」にて交付式が行われました。

研究課題と交付者名簿

「筋電計による小殿筋の動的な質的筋活動評価と選択的筋力強化方法の検討」

70万円

高知大学 岡上裕介氏

「骨壊死境界域における応力解析～骨頭圧潰メカニズムの解明および予防法の開発を目的とした基礎的研究～」

70万円

九州大学 本村悟朗氏

「寛骨臼回転骨切り術前後における血行動態の解析」

70万円

徳島大学 後東知宏氏

「人工股関節全置換術後早期の患者立脚型評価改善に影響をあたえる因子の検討」

70万円

順天堂大学 坂本優子氏

第25回 股関節研究セミナー 開催

同日同会場にて、第25回股関節研究セミナーが開催され、平成23年度研究助成金による下記の4件の研究成果報告が行われました。それぞれ、股関節研究にとって大変有意義な研究で、さらなる期待が持てる内容となりました。セミナー参加者は約40名、熱心な質疑応答が行われました。

報告1 「変形性股関節症の病気進行予測と病態解明を目的としたプロテオーム解析」

順天堂大学 湯浅 崇仁氏

報告2 「三次元動作解析法による Lumbo-pelvic Rhythm を用いた Hip Spine Syndrome の解明」

東京大学 緒方 直史氏

報告3 「THAにおける VitaminE 添加超高分子ポリエチレン(UHMWPE)の耐摩耗特性と酸化度の評価」

日本大学 齊藤 修氏

報告4 「臼蓋形成不全症におけるゲノムコピー数異常の解析とその臨床診断への応用」

宮崎大学 関本朝久氏



湯浅崇仁先生



緒方直史先生



齊藤 修先生



関本朝久先生

股関節Q&A

Q 1

人工股関節手術後に運動やスポーツをしてもよいですか？

A 1

人工股関節は医用生体工学の進歩とともに、人工軟骨の耐久性が向上し、年々、人工股関節手術を受ける患者さんが増加しています。そして、現在はより充実した人生を送るための手段として、人工股関節置換術が考えられはじめています。人工股関節置換術が最後の手段として考えられていた数十年前には考えられないことです。

Q 2

なぜ、運動やスポーツがよいのですか？

A 2

現在は、あまり術後のライフスタイルが問題にされていませんが、超高齢社会に向かい、それは重要な課題になります。適度な運動やスポーツは、薬物より有効な健康維持法であり、身体を動かすことで人間の体力は増強します。そして、運動器の機能低下を早めに予防することができれば、活動的な状態とロコモティブシンドロームの予防につながり健康寿命は延伸できます。

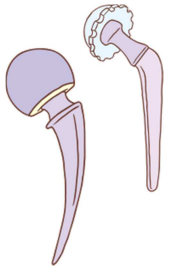
Q 3

おすすめの運動やスポーツ、避けた方がよい運動やスポーツがありますか？

A 3

2010年のアメリカでの報告では、人工股関節置換術後の運動・スポーツ開始について①推奨する、②経験があれば推奨、③推奨しないの3つに分けています。

①推奨するのは、ゴルフ、テニスのダブルス、ウォーキング、速歩、ハイキング、ボーリング、サイクリング等であります。



健康寿命延伸のための重要なキーポイントでもあります。



②経験があれば推奨、手術前から、スキー滑降、クロスカントリースキー、重量挙げ、アイススケート、ローラーブレード、ピラティス等、十分な経験がある場合は推奨しています。

③推奨しない項目では、スカッシュ、ジョギング、アメリカンフットボール、サッカー、バスケットボール、ハイインパクトのエアロビクス、野球、スノーボード等です。

また、興味深いのは、テニスのシングルスは推奨しないが、ダブルスは推奨する項目に入っています。運動量がそれだけ違うということです。つまり、非常に負荷のかかる激しいスポーツは、人工股関節の寿命を短くすることもあります。自分にあつた運動・スポーツを行うには、その時間や負荷を調整することが大切です。基本は、勝ち負けのみを競い合うのではなく、楽しんで行って頂きたいです。また、医師の定期検診を受け、ご自分の運動・スポーツが適度であるかも確認し、運動器の健康寿命を延伸してください。



聖マリ安娜医科大学

整形外科学講座代表教授

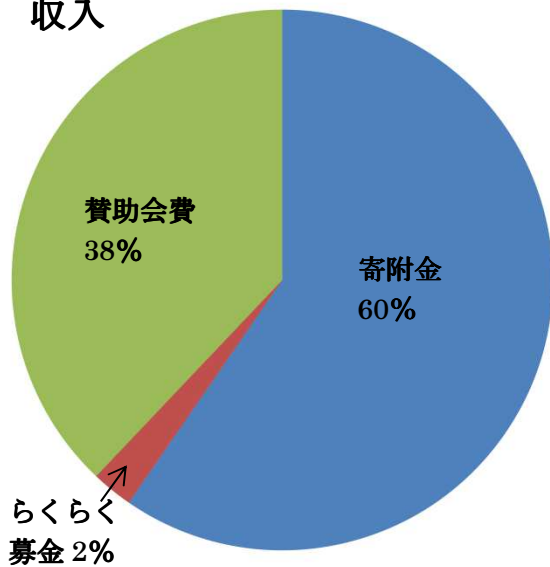
公益財団法人

日本股関節研究振興財団理事長

別府諸兄

「寄附金・らくらく募金・賛助会費決算報告」

収入

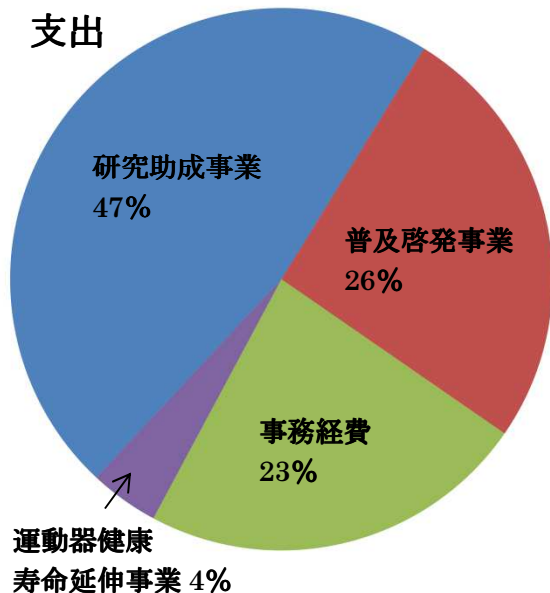


平成25年度に当財団が皆様からお預かりした寄附金・らくらく募金・賛助会員の総額は、16,565,000円でした。そのうち7,763,000円が助成金として股関節の研究のため、4,277,000円が普及啓発事業のため、683,000円が運動器健康寿命延伸事業のため、3,842,000円が事務経費となり、財団の活動に大きく貢献する結果となっています。

収入	金額 (円)
寄附金	9,872,000
らくらく募金	410,000
賛助会費	6,283,000
合計	16,565,000

※1,000円以下四捨五入

支出



※普及啓発事業の主な事業は、市民フォーラムです。運動器健康寿命延伸事業の主な事業は、運動器健康寿命延伸体操ロコモン体操講習会です。

事業名	金額 (円)
研究助成事業	7,763,000
普及啓発事業	4,277,000
運動器健康寿命延伸事業	683,000
事務経費	3,842,000
合計	16,565,000

※1,000円以下四捨五入

役員名簿

理事長 別府諸兄 (聖マリーナナ医科大学 教授)
専務理事 泉田良一 (江戸川病院 慶友人工関節センター長)
理事 瀧美敬 (昭和大学 教授)

飯田寛和 (関西医科大学 教授)
岩本幸英 (公益社団法人日本整形外科学会 理事長・九州大学大学院 教授)

大久保康一 (藤崎病院 副院長・整形外科部長)
清家輝文 (編集工房ソシエタス 代表)
高野紀美 (NPO法人のぞみ会 理事長)

帖佐悦男 (宮崎大学 教授)
冨森浩二 (帝人ファーマ株式会社 在宅医療営業企画部長)
内藤正俊 (福岡大学 教授)

樋口富士男 (久留米大学 医療センター 病院長・教授)
安永裕司 (広島県立障害者リハビリテーションセンター 副所長)

監事 東郷良尚 (公益財団法人日本ユニセフ協会 副会長)
下西惇夫 (元帝人(株) 事業管理部長)
秋山治彦 (岐阜大学 教授)

石井千恵 (清心会藤沢病院 企画調査室長)
大谷卓也 (東京慈恵会医科大学 教授)
大野誠 (日本体育大学大学院 教授)

黒田龍彦 (旭化成ファーマ(株) 医薬事業推進 総務メディアコアフェアーズ 部長)
阪本桂造 (西蒲田整形外科 院長)

一青勝雄 (前順天堂大学浦安病院整形外科 教授)
谷眞人 (東京パブリック法律事務所 所長・弁護士)

富田直秀 (京都大学 教授)
別府裕美子 (メディカルフィットネス研究所 代表)

本間生夫 (東京有明医療大学 副学長)
間島直彦 (愛媛大学 准教授)
米倉芳枝 (滋賀天産物研究所 監査役)
(平成27年1月現在) (敬称略・五十音順)